

# 公立学校情報機器整備事業に係る各種計画

令和7年6月 策定

上田市長和町中学校組合教育委員会

## 目次

- ① 端末整備・更新計画
- ② ネットワーク整備計画
- ③ 校務D X計画
- ④ 1人1台端末の利活用に係る計画

白色のセルに数値・内容を入力してください。色付きのセルには触らないでください。

【上田市長和町中学校組合】 端末整備・更新計画

2025年6月

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	※算出方法・留意事項は以下のとおり
① 児童生徒数(人)	173	176	171	175	170	・当該年度の5月1日現在の児童生徒数(計画策定時において未確定の場合は推定値を記入すること)
② 予備機を含む 整備上限台数(台)	198	202	196	1	-5	・(当該年度の①)×1.15-(基金事業により整備済の台数)
③ 整備台数(予備機除く)(台)			175			・GIGA第2期向けに整備する台数を記入する。基金事業開始後に、基金事業によらずに整備するものがある場合には、当該台数も算入する(基金事業による台数は④に記入する)。
④ ③のうち 基金事業によるもの			175			・④と⑦の合計は②以下である必要がある。
⑤ 累積更新率	0%	0%	102%	100%	103%	・((当該年度までの③の合計)/①)×100 ・基金設置期間中に、累積更新率は100%に達する(端末の整備・更新が完了する)想定である。
⑥ 予備機整備台数			25			・GIGA第2期向けに整備する予備機の台数を記入する。 ・当該年度に整備する台数を記入する。基金事業開始後に、基金事業によらずに整備するものがある場合には、当該台数も算入する(基金事業による台数は⑦に記入)。
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの			25			・④と⑦の合計は②以下である必要がある。
⑧ 予備機整備率			14%			・⑥/③×100 ※上限は整備台数の15%

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

端末の整備・更新の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度(令和2年度整備)より使用している224台について、令和8年度に更新を行う。</li> <li>・生徒数の増減が見込まれるが、予備機を利用しながら随時計画を見直し適切な更新を行う。</li> </ul>
更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対象台数:224台</li> <li>○処分方法</li> <li>・小型家電リサイクル法の認定事業者にて再使用・再資源化を委託:164台</li> <li>・学校で再利用:60台</li> <li>○端末のデータの消去方法</li> <li>・処分事業者へ委託する</li> <li>○スケジュール(予定)</li> <li>令和8年12月 処分事業者 選定</li> <li>令和9年3月 使用済端末の事業者への引き渡し</li> <li>○その他特記事項</li> <li>なし</li> </ul>
「⑤累積更新率」が令和10年度までに100%に達しない場合は、その理由	

※この計画は「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領」の13ページを参考に作成。

白色のセルに数値・内容を入力してください。色付きのセルには触らないでください。

## 【上田市長和町中学校組合】 ネットワーク整備

2025年6月

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	※留意事項
①十分なネットワーク速度が確保できている学校の割合(%)		100%				・目標値を記入する。十分なネットワーク速度とは、同時利用率を考慮した学校規模ごとの通信帯域が確保されている状態。(R7.5時点)
②簡易アセスメントの実施計画	ヒアリング、簡易アセスメント実施	ヒアリング、簡易アセスメント実施	ヒアリング、簡易アセスメント実施	ヒアリング、簡易アセスメント実施	ヒアリング、簡易アセスメント実施	・簡易アセスメントとは、教育委員会が学校に対してアンケート、ヒアリング、現地調査などでネットワークの問題の有無を調査することを意味する。
③アセスメントの実施計画		簡易アセスメントの結果により実施要否・実施内容を検討	簡易アセスメントの結果により実施要否・実施内容を検討	簡易アセスメントの結果により実施要否・実施内容を検討	簡易アセスメントの結果により実施要否・実施内容を検討	・アセスメントとは、専門の業者等に依頼してネットワークに問題がないか、問題がある場合はその原因が何かを明らかにし、改善に繋げることを意味する。十分なネットワーク速度が確保できていない学校がある場合に、アセスメントを実施しないことは、一部の例外的な場合を除き想定されない。
簡易アセスメントによって課題が明らかとなった場合の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に応じてアセスメントを検討・実施する。</li> <li>・緊急的に対策が必要な場合は予算要求をしアセスメントを実施する。</li> </ul>					
アセスメントによって課題が明らかとなった場合の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算要求をし、対策を講じる</li> </ul>					
アセスメントを実施しない例外的な事情(ある場合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>					

※この計画は「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領」の13ページを参考に作成。

白色のセルに数値・内容を入力してください。色付きのセルには触らないでください。

## 【上田市長和町中学校組合】校務DX計画

2025年6月

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	※留意事項
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	0%	0%	0%	100%		・クラウドツールの未活用やFAXでのやり取り・押印の見直し、不合理な手入力作業の一扫については、校務の効率化・ペーパーレス化の大きな阻害要因になっているものであることに十分留意すること。
	不合理な手入力作業の一扫に取り組んだ学校の割合	0%	0%	0%	100%		
	クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合	0%	0%	0%	100%		
選択項目	3.学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校の割合	100%					・自治体として力を入れたい内容をリストから選択する。 ・選択肢はGIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストの34項目より作成。自己点検の結果等を踏まえつつ、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題を選択する。
	16.職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化している学校の割合	100%					
	19.職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れている学校の割合	100%					
課題と解決策の具体	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体ごとシステム環境が違うため、異動した際に負担が生じる。</li> <li>・教職員間にICTスキルの差がある。</li> </ul>					
	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題の解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援による継続的な授業支援、校務支援の実施</li> </ul>					
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行のネットワークシステムについて、次世代校務支援システムに対応できるシステムへの更改を検討する。</li> </ul>					

※この計画は「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領」の14ページを参考に作成。

白色のセルに数値・内容を入力してください。色付きのセルには触らないでください。

## 【上田市長和町中学校】 1人1台端末の利活用に係る計画

2025年6月

項目	内容	※留意事項
①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、生徒一人ひとりの学習進度に合わせた体制の構築や授業を推進するとともに、多様な他者との対話・協働により、自らの問いの解決に向けて追及する探究の学びを充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）等の内容並びにこれらに引き続く政府の議論も踏まえ、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて実現を目指す学びの姿を記載する。</li> </ul>
②GIGA第1期の総括	令和2年度にGIGA端末及び通信ネットワークを整備し、現在まで大きなトラブルもなく利用している。今後は更なる端末の活用拡大も踏まえ、定期的な簡易ネットワークアセスメントの実施を行い環境の維持を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①も念頭に、令和5年度までの間にGIGAスクール構想の実現に向けて実施してきた端末と通信ネットワークの整備や、これらを活用した学びの実践のための取組等の総括を行い、その結果を記載するとともに、明らかになった課題については、その解決策とともに記載する。</li> </ul>
③1人1台端末の利活用方策	<p>端末の整備・更新により、生徒の1人1台端末環境を引き続き維持し、「自立と社会参加に向け、一人ひとりの力を最大限に伸ばすICT教育の推進」を目指す。GIGA第1期の取組に加え、今後は以下の取組も順次進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドの活用による「生徒同士の協働的な学習」、「学校と家庭での連続的な学習」の実践については、一人ひとりの興味関心や実態に応じた活用方法について研究する。</li> <li>・特別支援教育においては、文部科学省が示している特別支援教育におけるICT活用の視点「教科指導の効果を高める、情報活用能力の育成を図る」、「障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服する」の2つの視点で各校の実践を整理、収集、研究をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①及び②を踏まえ、端末の利活用方策を記載する。その際、1人1台端末の活用、個別最適・協働的な学びの一体的な充実、学びの保障の視点に触れて方策を記入する。</li> <li>端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することを明記する。</li> </ul>

※この計画は「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領」の15ページを参考に作成。